

G-7 家庭科の性格とその改善

美作短大 額田 清

1. 家庭科は現在女子のみに課せられた教科であり、男女平等を基本とする教育の体系においていわばまま子的な存在になっていると見てよい。家庭科に対する差別感・「ひがみ」等の現象は多くこれに原因している。学校教育の中に家庭科が正当な地位を占め得るような性格を与えようとするのが目的である。

2. 文献調査その他による

3. 家庭科が本質的に男生徒に不適であるとする理由は存在しない。よってこれは男女を問わない教科とすべきである。ただし男子生徒にも履修しやすいよう実習を大巾に減らすなど内容に若干の修正を加える必要がある。

家庭科は他の教科に比べると過大な要求を引き受けており、これがためにアブハチ取らずの結果となっている。従って教科としての家庭科の性格をハッキリさせ、その内容を整理し、従来ややもすれば陥りやすかった技能教科的な錯覚から脱け出すべきである。(男女共学は必然的に技能教科をあきらめさせることにもなる)